

◆ 名詩集選題

白井知子  
滝口雅子詩集「鋼鉄の足」 118

◆ 手を離さず世界の詩人たち

後藤大祐  
サイゴンの青い空、コロナとの見えない戦争 122

◆ 詩人論

中川達矢  
飯島耕二の帽子を求めて  
—飯島・朝太郎・西脇をめぐって— 126

◆ 鎌倉3 (全四回)

佐藤幹夫  
津久井やまゆり園事件、裁判のどろろが「問題」だったか 3  
—被告の「二面性」に、なぜ踏み込めなかったのか 135

◆ 五回シリーズ

香港の詩と詩人 第3回 田原・監修 竹内新・訳  
游静 143 淮遠 146

◆ 選題詩論

苗村吉昭  
実践版 新・民衆詩派詩論 8  
甲田四郎の庶民性と詩の力 148

◆ 風の広場

加勢健一 有限無情から解き放たれるために 156  
とよださなえ 八十歳を越える 159

◆ 詩人の職

万里小路譲 ジャズ喫茶の衰退と幻想的繁栄 162

◆ バイリンガル・ボエム

加藤思何理 ガラスを歩く日 164

◆ 詩誌評

白鳥 真 次世代への継承とネット 166

◆ 詩集評

河野俊一 詩に向かう姿勢 170

◆ 研究会だより

青木由弥子 言葉の醸し出すもの 174

花潜 幸 講師から 174

◆ 新刊 Review

愛敬浩一 詩集「ゆつくり五秒」 井上英明 176

青山いさお 詩集「魂の調べ」 真原雅一 176

方喰あい子 詩集「夏みかんの木」 三ヶ島千枝 177

秋元桐至 詩集「聖堂」 石井宏紀 177

曲山 浩 詩的現代叢書41「イエロー的 愛敬浩一とクワシキョウ」 178  
詩的現代叢書42「七夕の雨」 長谷川信子 178

◆ 読者投稿作品

帆場藏人 井上美帆 早乙女ボブ 澁澤 赤

有原悠一 船津拓実 本結瓜澄 石川順一 179

◆ 選評

瀬崎 祐 詩の言葉 183

北原千代 好きな詩集を耽読してみる 185

◆ 執筆者紹介

新刊詩誌・詩書一覽 188

インフォメーション 192 189

◆ 編集後記

193





游静

You Jing  
ヨウ チン

田原・監修 竹内新・訳

本名。一九六六年、香港生まれ。一九八〇年代、香港の新聞・雑誌にコラムを書き始め、併せて詩、散文、小説および文化芸術に関する評論等を発表する。現在、香港中文大学中国研究センター客員教授。詩集「大毛蛋」、「不可能の家」。

### 港台間飛行機詩

It's heavy

香港から来たと思われる一人の  
幼い男の子はフィリピン人お手伝いさんに  
重いよと言った  
それは手に提げた荷物のことだったが  
もう一方の脇には  
分厚い世界地図集を抱えていた

中正は

飛行場の名前 父はそれまで私に話してこなかった  
その年四九年 彼が申請したのは 台湾行きだったが  
許可が得られなかった 「国民党員じゃなかったの？」  
と私は訊ねた 「自転車に乗って共匪へ奔った」という  
のが少年の私の  
英雄冒険譚だった 「だからおまえは国民党だと言うん  
だねー」  
母はやつと背いて 彼らの一生の物語を話したが 母には  
窮地に置かれてる我が一生については 窺い知るすべ  
がなかったのだ  
父は説教だけはしても 口数少なく いつも虚空を睨ん  
でいたのだ



中正国際

空港 我が自由を思い描く  
 旅行の自由は特権なのではない などと言わないで欲しい  
 我が父は大陸旅行をしなかった  
 我が父は台湾旅行をしなかった  
 我が父は米国旅行をしなかった  
 我が父はBNO携帯を拒んだのだった  
 我が父の唯一の旅行者証明書は  
 身分証明書 我が父は思うのだった  
 向いの通りの屋台へ食べに行くというのは  
 たとえ勘定するのが私でも 遠すぎるのだった

文章は書いても これまで彼らのことは書いてこなかった  
 私の自由は 彼らを唾棄するところから来ていて  
 階級を 歴史を 傷を 後方にいる中国人を  
 唾棄するところから生まれてきた  
 家賃の安いアパートの 長い廊下のつき当たり  
 人気のドイツ製のテレビのなかに  
 住んでいた(日本製品の使用は願ひ下げだったので)

中華航空 ニューヨーク行き便  
 想い浮かべている 私は台湾人中国人大陸人

私は思い描く 全く歴史をもたない  
 一杯の水を それを飲むのが好きだ  
 それには歴史がないからだ いかなる民族的  
 立場もないからだ だがもし私に  
 BNOがなかったなら わたしはここで  
 それを飲み さらにそれを  
 自分の立場について考える詩のなかに書けるだろうか

客室乗務員は旗袍を着て  
 バイナップルジュースを運び 乗客用新聞雑誌を届ける  
 尾翼の梅花のシールははがれ落ちて  
 きつと 米國3M社生産の  
 粘着ペーパーの不良で 中華航空の粘着技術とは無関係だ  
 梅花シールよ 私もまたおまえに望む  
 「莊敬自強」して中南海の外 もう二度と  
 ホラは吹かず体面に拘らず旗袍は着用せずネクタイを外  
 さず軍事演習をせず  
 蝸牛に扮してヒザを発射することのない中国になるよう  
 おまえに望む  
 たとえおまえがかつて  
 身元が無くて家が持てないのにおまえを信じた無数の  
 中国人を拒絶したことがあったとしても

ユーゴスラビア人  
 私は香港人だ 両方がうまくかみ合っているに過ぎない  
 今は 頑張り続けられている  
 外気の温度は 零下三十二度だという それでも私は  
 香港人 そうでないことも可能だけれども

私は思い描く 私は違う 私は渴望する  
 私は違う 東中国海上空から  
 夜市のある基隆が見えれば 夜市のある香港が思い浮か  
 んでくる もしも  
 軍事政権一党独裁を通して互いに相手方のネクタイ姿の  
 議員を  
 圧迫するようなことがあるなら 香港は一つの  
 国家(莊敬自強)であり 一幅の  
 帆船の見える夜景 ではないのかも知れない  
 パリニューヨークロンドンチューリッヒ台北香港の  
 上空 無援と偶然の一致を思い描く  
 無料で渡される綿フランネルのスリッパを  
 ぐどぐど面倒な広東語を 袋いっぱい  
 西西の小説を思い描く 私たちは今ちょうど時速六百九  
 十九キロで  
 飛行し 地表から二万九千フィート離れている

こうなったからには 身分が存在しないと考える国家へ  
 飛んで行くことを思い浮かべるのだ  
 梅花シール一九九七中国歴史に向き合えば私は香港人  
 BNOと我が荷物は 重い  
 感激と  
 自強を学び それを透明なコップに  
 水のように注いでやろう

一九九三〜一九九六

- \*1 中正=蒋介石の別名。それが飛行場名になっている。
- \*2 BNO=英国海外市民パスポート(赤色)。中華人民共和  
 国香港特別行政区発行のパスポートは青色。
- \*3 莊敬自強=「莊敬」は「厳かで慎重深くすること」、「自  
 強」は「自らを強くすること」。一九七一年、台湾が国連  
 を脱退したとき、蒋介石總統が唱えた「莊敬自強、勉  
 不驚」(厳かに且つ慎重深くして、自らを強くせよ。状況  
 の変化に驚くな。)の前年。
- \*4 西西=小説家の名前。
- \*5 米國3M=米國の素材大手メーカー。世界有数のコン  
 グロマリット。